

第12回 川柳大会

文芸の秋、月刊日本橋恒例の「川柳大会」。
読者の皆様の川柳を大募集します。誌上であなたのナイスな作品を発表しましょう。今年から選者が変わり、ちよっぴりりニユーアル。さあさあ、どなた様でも何句でも、どんな作風でもOK。ふるってご応募ください！

その一 日本橋をイメージさせる川柳

江戸、老舗、路地裏、下町、百貨店、ビジネス街そして日本橋……いろんな顔を持つ日本橋。日本橋の街をイメージさせるような、月刊「日本橋」川柳大会にふさわしい一句。

その二 なんでもあり川柳

テーマ自由の川柳を募集します。

●選者／尾藤一泉（川柳学会専務理事）
編集部賞もあります。

※今年より選者が変わりました！

●発表／月刊『日本橋』11月号

●締切り／9月18日（金）必着

●応募方法／住所、氏名、年齢、職業、連絡先電話番号を明記の上、下記までハガキでご応募ください。応募点数制限なし。ただし、一枚のハガキで5句まで。

〒103-0022

中央区日本橋室町1-8-2 末広ビル7階
月刊日本橋「川柳」係

★賞★

大賞 2万円の図書カード

一泉賞 1万円の図書カード

ほか、各賞に賞品をご用意。

※入賞作品の著作権は月刊『日本橋』に帰属。

締切りは9月18日（金）必着！

力作をお待ちしています。

川柳豆知識

川柳第一号は日本橋の句

俳諧連歌を源とする川柳は、付け句からあらかじめ用意された七七を省略し、五七五として独立した。前句師・柄井川柳が選んだ句の中から、呉陵軒可有が選出して『俳風柳多留』を刊行したことから、「川柳」と呼ばれるようになった。

さて、その川柳第一号が次の一句。

降る雪の 白きを見せぬ 日本橋

宝暦7年（1757）8月25日、川柳が初めて川柳として認められた発表句の第一号。絶え間ない日本橋の往来を詠んだ一句だ。ちなみにこの句の前句は「にぎやかなこと にぎやかなこと」。

選者紹介

尾藤一泉（びとう いっせん）

1960年、祖父・尾藤三笠、父・尾藤三柳という川柳家の家に生まれる。東京理科大学工学部、武蔵野美術大学短期大学部美術科を卒業。15歳より川柳を始める。現在、川柳学会専務理事、「川柳公論」編集委員、川柳「さくらぎ」主宰、女子美術大学非常勤講師、武蔵野美術大学非常勤講師、ほかにも文化センターやオープンカレッジでも講師を努める。著書に、合同句集『川』（共著／1985）、『現代川柳ハンドブック』1997、『絵画の教科書』（共著／2001）、『親ひとり子ひとり』2001、『門前の道』2004、合同句集『天』（共著／2005）、『川柳総合大辞典』（編著／2007）、『目で識る川柳250年』（編著／2007）など。



東京の人東京で草臥れる

西秋忠兵衛